

社会の「いきいき」のために

TaKaRa 田んぼの学校 2010

次世代を担う子どもたちに、自然環境や生物多様性を守ることの大切さを伝えます。

TaKaRa 田んぼの学校

宝酒造は、穀物や水、微生物など自然の恵みを受けて事業活動を行っています。このため、企業理念に「自然と社会と人間との調和」を掲げ、古くから環境活動に取り組んできました。

このような活動の一環として、次世代を担う子どもたちに自然環境や生物多様性を守ることの大切さを伝えることを目的として、TaKaRa 田んぼの学校を開校しています。

4月 田植え編

〈田植え体験・自然観察・草花名刺作り・振り返り〉



指導員が捕まえたカエルを観察する子どもたち

6月 草取り編

〈草取り体験・自然観察・振り返り〉



草花の観察



振り返りの授業で一日の体験を記録

社会の「いきいき」のために

地元、環境NPO、企業の3者の協働で運営

TaKaRa 田んぼの学校は、地元農家や千葉県自然観察指導員協議会の皆様、NPO法人森の学校の皆様、さらには宝酒造の社員ボランティアなど、多くの人たちの協力に支えられて運営しています。

VOICE

お米のありがたさ、自然の恵みについて考えてください

この学校では、田植えから収穫まで農作業の流れをすべて体験できます。都会に住む方たちが自ら田んぼに入って苗を植え、草取りをし、収穫をすることで、「お米はこうやってできるんだ」ということを肌で感じてもらうことができる、素晴らしい企画だと思います。

参加されたみなさんは、ご飯を食べるときに、お米のありがたさや、自然の恵みということを考えてくれるのではないのでしょうか。

農業指導 地元農家 帯金 国男様



VOICE

自然と人間の深いかかわりが学べる自然教育の場です

自然観察会の主旨は、「命のつながり」を教えながら、自然の豊かさ、奥深さを伝えていくことにあります。この「田んぼの学校」は、お米作りを体験することによって、農業の大切さを実感し、さらにはそれが、自然と人間の深いかかわり合いによって成り立っていることが学べる、自然教育の場です。

自然観察指導 千葉県自然観察指導員協議会 高井 昭夫様



テーマ：自然の恵みと命のつながりを学ぶ

趣旨：①自然を守り大切にすることを学ぶ（環境教育）

②農体験を通じて自然の恵みに感謝する心を培う（食育）

③お米と本みりんに関する認識を深める（社会・伝統文化教育）

 G: 田んぼの学校

9月 収穫編

〈稲刈り・脱穀体験・自然観察・振り返り〉



農具「千歯こき」を使った脱穀体験

11月 恵み編

〈餅つき・ラベル作り・振り返り〉



こも樽造りの見学

翌年 本みりん 完成



収穫したもち米を使って、当社工場で本みりんを造ります。子どもたちが手作りしたオリジナルラベルを貼って、参加者のももにお届けします。

社会
の「いきいき」のために

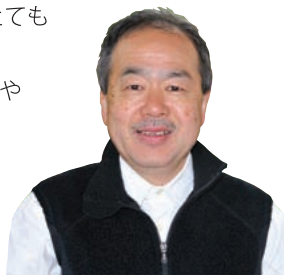
VOICE

田んぼは「命のつながり」を五感で学べる 絶好の場所です

1粒の小さな種籾が1,000～2,000粒にもなる“お米という命”を育むのが田んぼです。だから田んぼは「命のつながり」を学ぶ絶好の場所。田んぼの中や周りの草花、そして草花と虫たちの関係を五感を使って観察すると、生きものたちの「生きる知恵」と「命のつながり」がとてもよくわかります。

田んぼの学校は、そんな感動や学びを心に蓄えることを大切にしています。

企画・運営支援 NPO法人森の学校
佐伯 剛正様



VOICE

子どもたちが自然と触れ合い、気づき、 学んでいく姿に感動します

「田んぼの学校」は、「命のつながり」という大きなテーマのもとで、子どもたちに徐々に気づきを与えていく流れで授業が構成されていることに驚きました。

日ごろ自然と触れ合う機会が少ないお子さんたちが、実体験を通じて自然・食・生命について一生懸命考え、自分で学び取っていく姿を見て私自身も学ぶことが多くあります。

社員ボランティア 本社 商品部
日下田 美樹

